

海女研究会

二〇一七・二・十三



浮世絵から見る海女

海の博物館

AMA in UKIYO E



伊勢の海士長鮎制之図

海の博物館 縣拓也

1. 浮世絵の性質と海女の描かれ方

浮世絵に多く登場するということは・・・

薄利多売の大衆娯楽であるため、たくさん売って儲けをださなければならぬ

- ➡ 出版プロデューサーの版元が「売れる」と判断した画題
150年以上の長期にわたり、多くの版元から海女の浮世絵が刊行されている。
- ➡ 海女は、大衆を惹きつける、関心度の高い事柄であった

各時代の有名絵師が、海女を描く



杉村治兵衛

17世紀末頃



喜多川歌麿「鮑取り」
18世紀末(ボストン美術館/蔵)



歌川豊春「浮絵和国景跡龍宮玉取之図」
18世紀後半(日本浮世絵博物館/蔵)



鳥居清広「あわびとり」
18世紀半ば(鯨と海女の研究室/蔵)



歌川国芳「流行道外こまつくし」19世紀半ば(個人/蔵)



勝川春扇「鮑取り」1815～20年頃(神奈川県立歴史博物館/蔵)



橋本周延「相海鮑取之図」1882年(鯨と海女の研究室/蔵)



葛飾北斎「百人一首乳母が絵とき」1835年頃(国立国会図書館/蔵)

17世紀～18世紀前半：讃岐国志度の玉取姫伝説が画題に
←歌舞伎・能などでの「大職冠」上演の影響カ



宝珠を取り返して亡くなった海女「玉藻」
のものとされる墓(志度寺内)



18世紀半ば～19世紀初め：性的な描写の強調←好色本等の規制



鳥居清広「あわびとり」
18世紀半ば(鯨と海女の研究室/蔵)



鈴木春信「海女」
1767～68年(ボストン美術館/蔵)



石川豊信「鮑取り」復刻
18世紀後半(鯨と海女の研究室/蔵)



喜多川歌麿「河童と海女」(『歌まくら』) 1788年(大英博物館/蔵)

19世紀初め～：潜水表現の登場（玉取姫にて海中にいる体裁のものは以前からあるが・・・）



月岡芳年「今様げんじ 江の島児ヶ淵」《一部》
1865年（鯨と海女の研究室/蔵）



二代歌川国貞・二代歌川広重「東海道名所之内」
1863年（藤沢市教育委員会/蔵）



柳々居辰斎「あわびとり」
19世紀前半(ボストン美術館/蔵)

柳々居辰斎「あわびとり」
1815~20年(メトロポリタン美術館/蔵)



二代喜多川歌麿「海女」復刻
1810~20年代(鯨と海女の研究室/蔵)



葛飾北斎(歌川国定等の説も)「鮑取り」
19世紀初め(東京国立博物館/蔵)

19世紀初め～
潜水技術、朗らかさ、漁獲物
神秘性など**視点の多様化**

➡**エロティシズム等との融合**

2. 伊勢志摩の海女と浮世絵

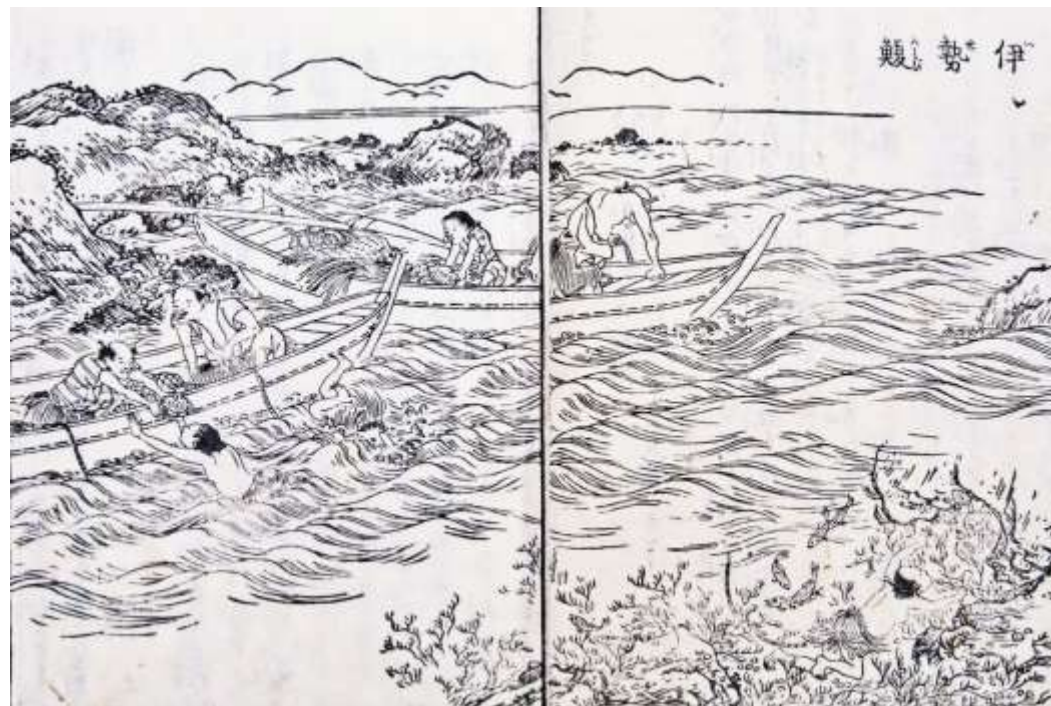


現状、最も古い伊勢志摩の海女浮世絵(歌川国貞「二見ヶ浦初日の出」 1807年 (日本浮世絵博物館/蔵)

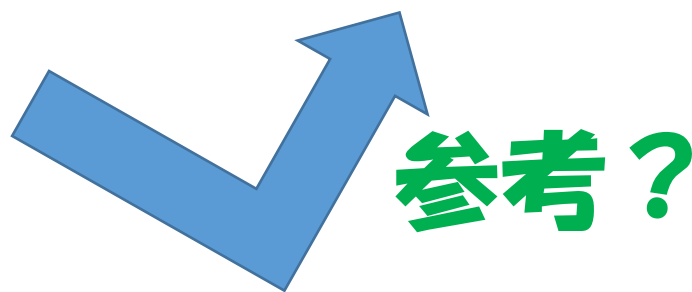
海女が絵の脇役から主役に



歌川国貞「勢州鮑取之図」
1830年代(三重県総合博物館/蔵)



「日本山海名産図会」1799年(個人蔵)



夫婦岩(立石)と海女



三代歌川豊国「光氏磯辺遊の図」《一部》 1857年(三重県総合博物館/蔵)

海女の分布地ではない

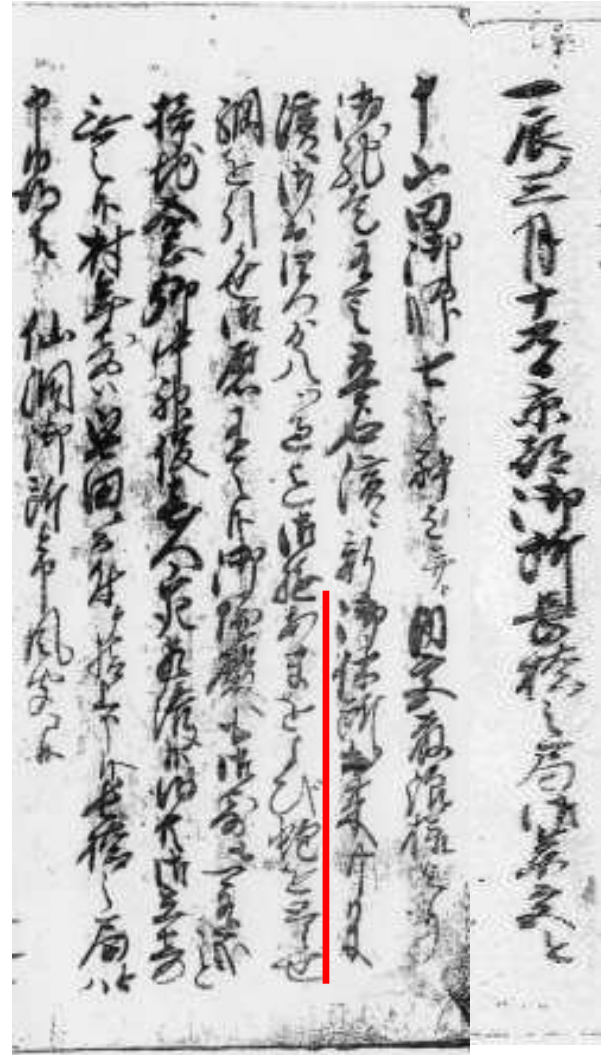
→ 代表的景勝と習俗をコラボさせた創作？



歌川国芳「山海名産尽 伊勢鮑」
1830年頃(鯨と海女の研究室/蔵)

長橋局(朝廷の高位の女官、正五位下)夫婦岩での海女見物(二見荘文書)

(明和九「一七七二」年)
一、辰ノ三月十九日、京都御所長
橋之局御参宮と申、山田御師七之
神主并二内宮藤浪様より御馳走
有之、立石浜二新御休所出来、廿
日に浜へ御出、四つより八ッ過迄
御遊、**あまをよび蛸をとらせ**、網
を引かせ御慰有之候(後略)



貴人に対して志摩の海女を招集しての実演サービス？

一般の観光客に対し、志摩国にて海女漁の実演

御師 中山安太夫
□一省入用三百人
ひるやうおんあつてま
糸の浦と云ふ所内
海三りのおねい浦と
海人女とやとひ蛇等
さうやとやとやとや
又いふの目知ふより
家士ふんも其系
やういふとやとや
うまをたてあつ

此所より船をかりて安
乗の浦と云所へ行、内
海三里有、扱此浦にて
海人女をやとひ蛇等
とらせてなぐさむなり、
また此所の日和山より
富士山見ゆる(後略)

『伊勢道中記』 安永4年:1775

(広島からの伊勢講参宮とともに)

脚色か？風聞の伝播か？



三代歌川豊国「伊勢の海士長鮑制ノ図」 1860年（鯨と海女の研究室/蔵）

海女と熨斗アワビ

「日本山海名産図会」寛政11年：1799
（個人蔵）





葛飾北斎「元禄歌仙貝合」 1821年 * 場所不明(ハーバード大学/蔵)



アワビ(メガイやマダカ)を薄くむく



数日干し、さらに薄くのばして加工する



磯笛？



三代歌川広重「大日本物産図会」 1877年(鯨と海女の研究室/蔵)

4. 浮世絵に見る海女の習俗と捉え方

海女の子育て

出産直前まで潜き、直後から潜く

→地域で、仲間で育てる

* 授乳＝乳房を描く口実の側面も



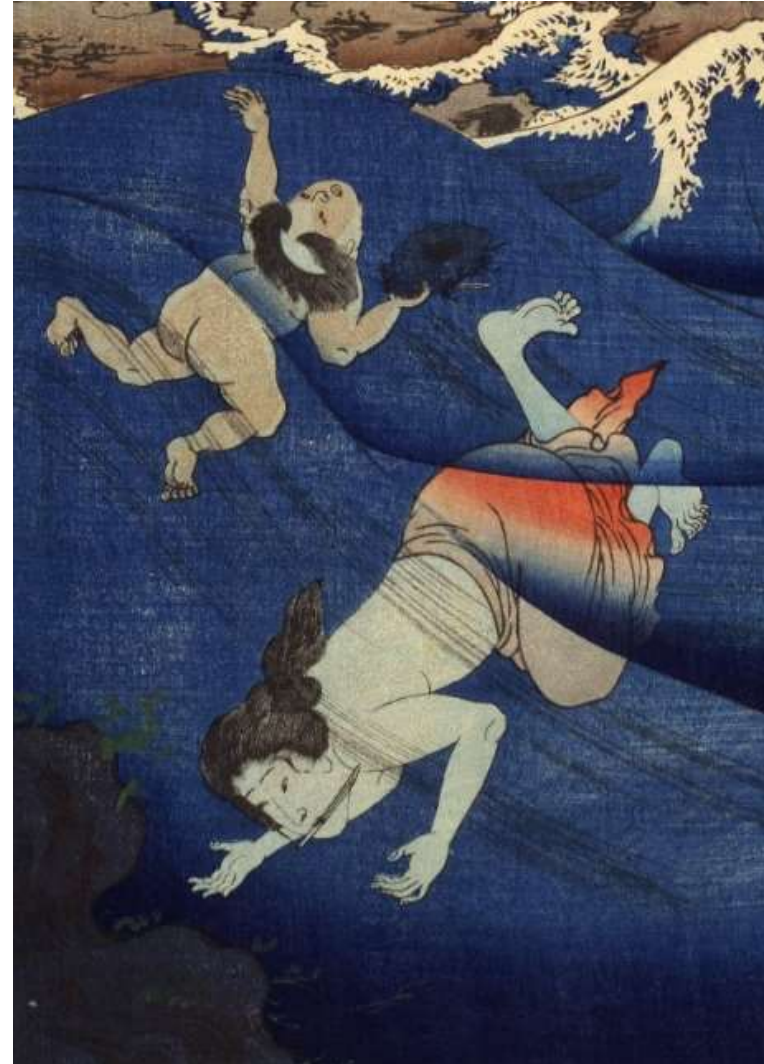
喜多川歌麿「鮑取り」1787～98年(東京国立博物館/蔵)



子どもは遊びのなかで技術を習得→海女になる

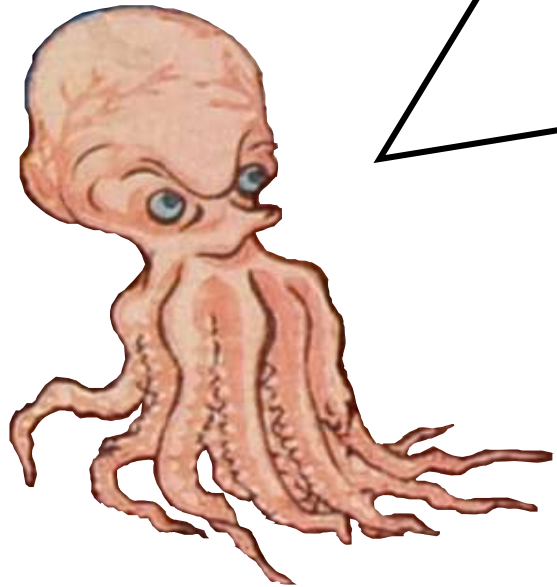


二代歌川国貞「田舎源氏色紙合」《一部》
1865年（鯨と海女の研究室/蔵）



二代歌川国貞・二代歌川広重「東海道名所之内」《一部》
1865年（鯨と海女の研究室/蔵）

海女さんがいる所に
ボクもいるよ



タコ====海女

海底(謎の世界、非日常)と陸地(日常)とを行
き来する神秘的な存在

あそぶ



三代歌川豊国「光氏磯辺遊の図」《一部》
1857年(三重県総合博物館/蔵)

からむ



歌川豊国「海女図」《一部》
1820年頃(千葉市美術館/蔵)

のぞく



歌川国芳「警諭草をしへ早引」
1840年代(鯨と海女の研究室/蔵)

鈴木春信「海女」
1760年代(東京国立博物館/蔵)



つかまえる



橋本周延「相海蛸捕の図」 1880年（鯨と海女の研究室/蔵）

海女ファッションの定番は？

浮世絵では赤い布が基本

= 女性らしさをあらわす創作カ

1840年代から柄物の登場

= 当時の江戸の流行を反映した創作カ





『三重県水産図説』明治14年:1881(三重県総合博物館/蔵)

鮑を獲るノミの描かれ方

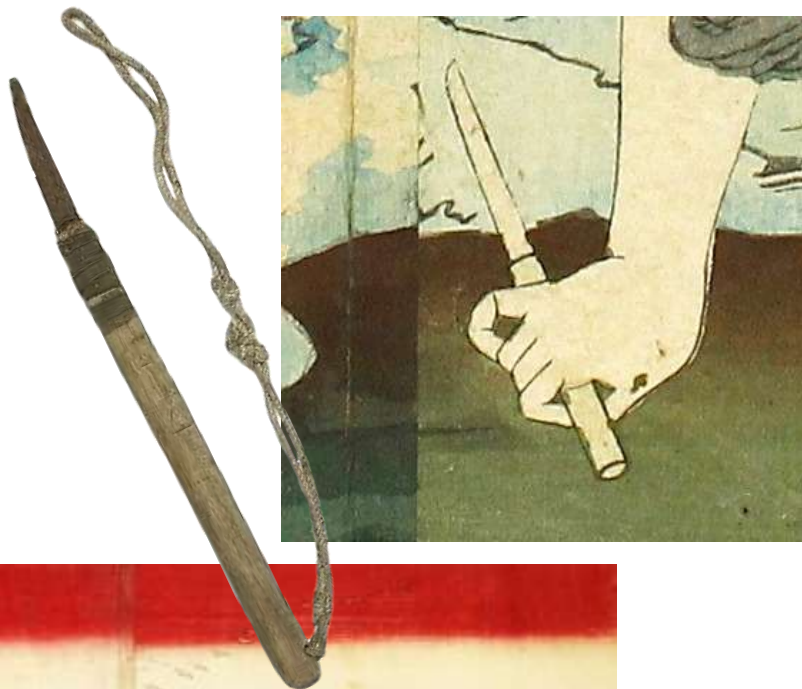
ノミは18世紀末まで、玉取姫伝説の小刀を除けば、描かれないか非常に不明瞭

→ 19世紀に入っても、伝聞のみで描くか、他絵図参照も多数の可能性アリ

← ノミ間違い？ 実在？



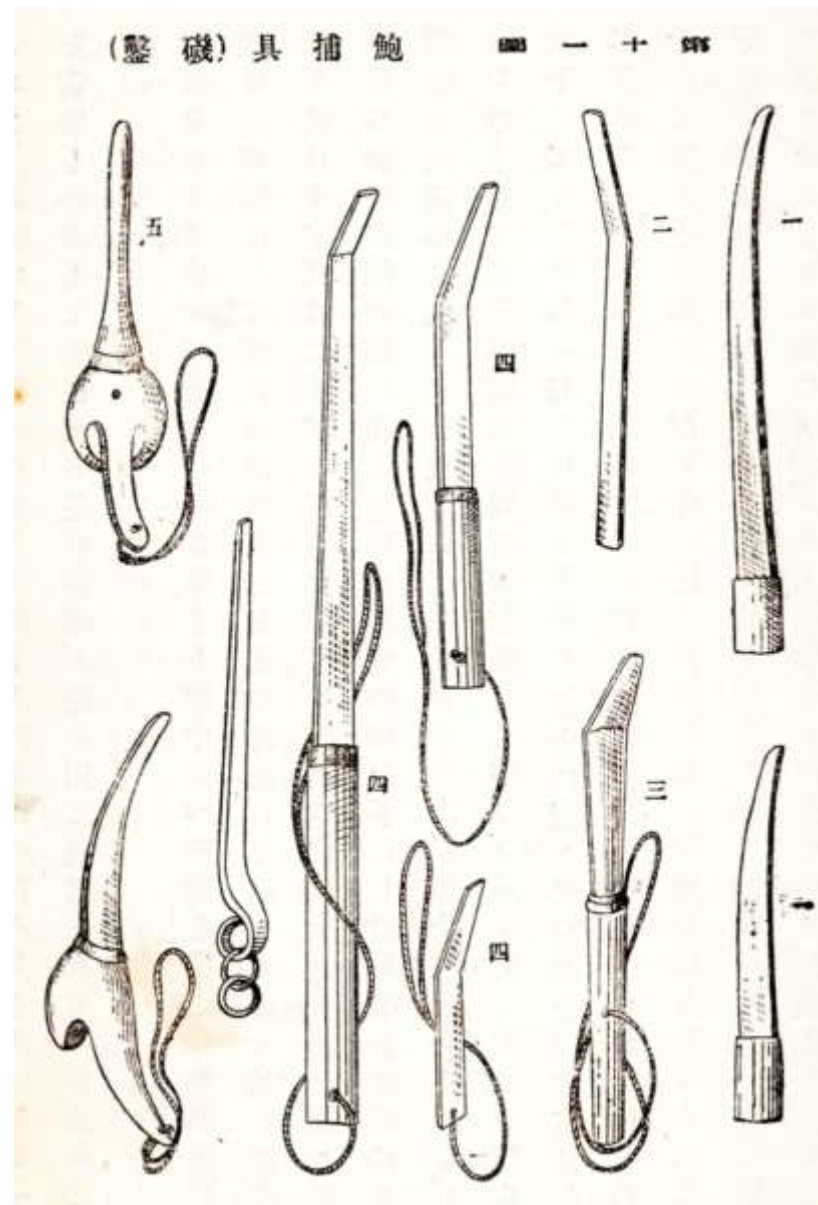
→ 江の島で男海士
が使用のノミ



橋本周延「相海鮑取之図」《一部》
1882年(鯨と海女の研究室/蔵)



勝川春扇「鮑取り」《一部》
1815~20年(ボストン美術館/蔵)



『日本水産捕採誌』 明治28年:1895 成立



喜多川歌麿「江之嶋遊りょうあわびとりの図」 18世紀末(神奈川県立歴史博物館/蔵)



ノミ違いは
勘違いか？
シャシか？

三代歌川豊国「光氏磯辺遊び 其弐」 1858年(かめやま美術館/蔵)

現代のカギノミと酷似

橋本(五雲亭)貞秀＝鳥の目を持つ浮世絵師
比較的写実性の高い絵師

→ 近隣で取材??



橋本貞秀「風流職人尽 海土」
1830年代頃(神奈川県立歴史博物館/蔵)



橋本貞秀「江の島茶番」 19世紀中期(藤沢市教育委員会/蔵)



鮑起鈎

長一尺



『長崎縣漁業誌』明治29年：1896（内容は1890年成立）

4. 海女の伝承と浮世絵

玉取姫伝説：江戸時代を通じて海女伝承の中心



歌川国芳「龍宮玉取姫之図」 1853年(ボストン美術館/蔵)

西国巡礼三番札所・道成寺：：和歌山県日高川町



創建にまつわる海女の伝説



天皇家や貴族など、貴人・英雄と海女伝説の結び付き

「道成寺絵巻」(道成寺/蔵)



歌川国芳「女護ヶ島の為朝」 1850年前後(神奈川県立歴史博物館/蔵)



当時海女いなくても**海辺十女性**＝海女を描く

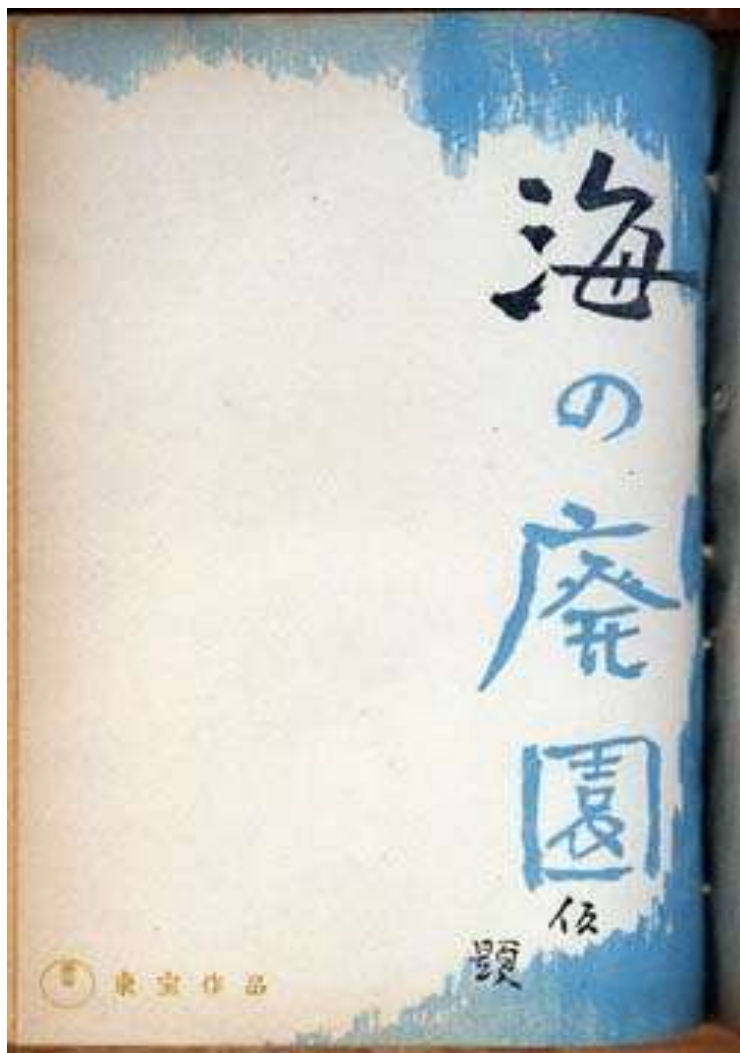
→ **魅力的な画題**

他の例 江の島・八丈島・鳴門渦潮あたり

月岡芳年「中納言行平朝臣左遷須磨浦逢村雨松風二蟹戯図」1886年(国立国会図書館/蔵)

*基の話では汐汲みの姉妹、須磨にも海女はいない

海女への関心 → 近現代へ継承



山田克郎「海の廃園」(昭和25年、直木賞)

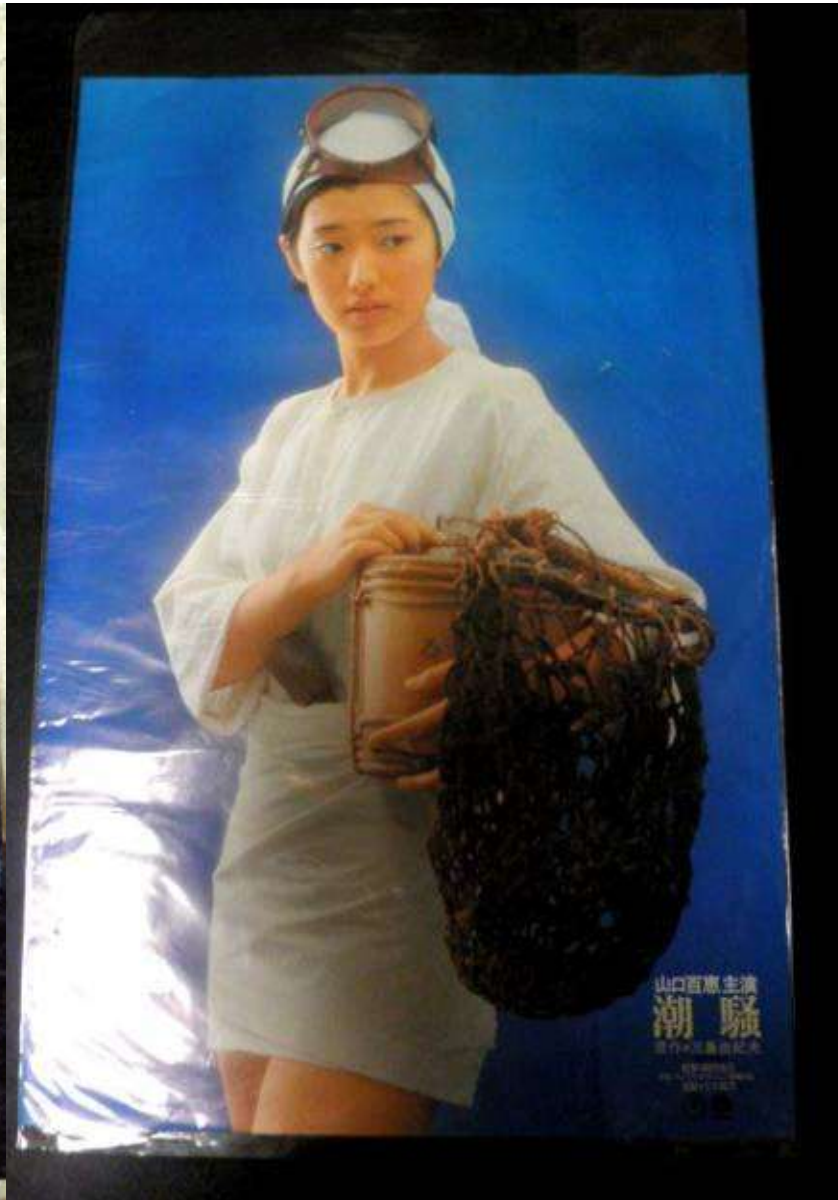
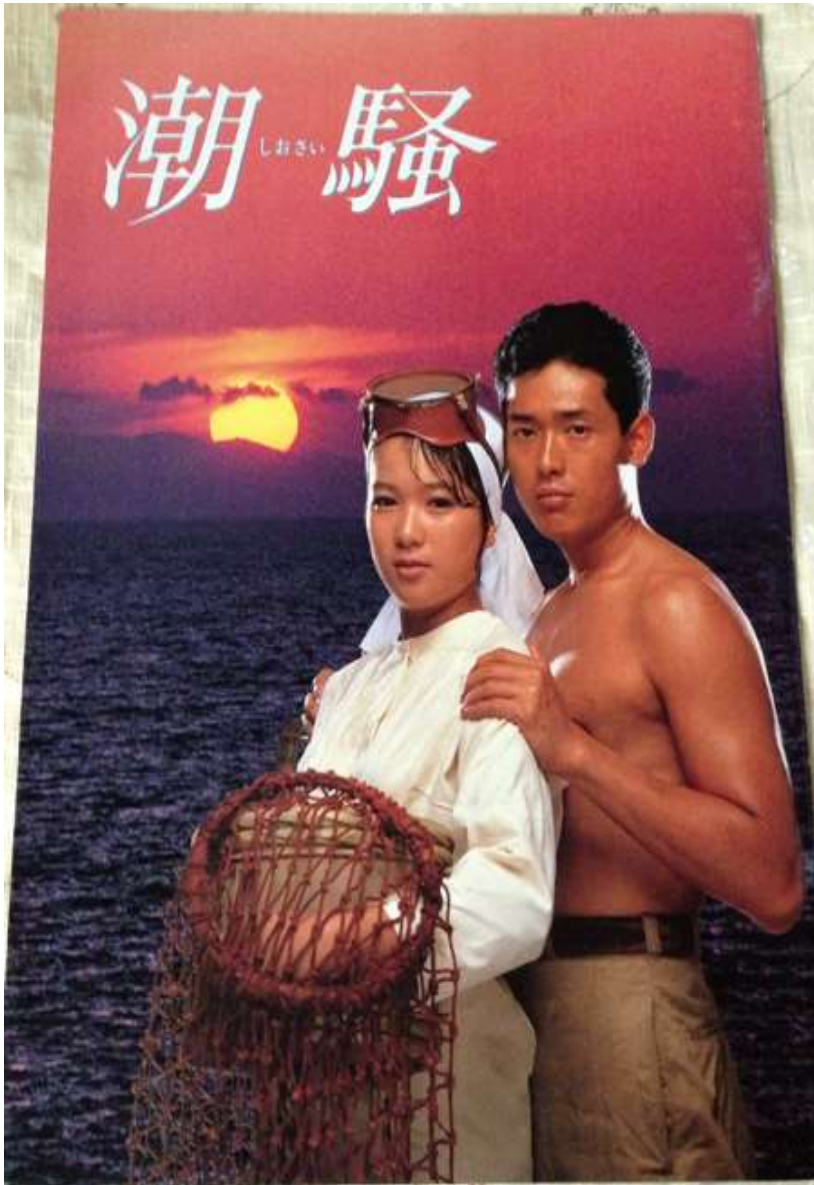


近藤啓太郎「海人舟」(昭和31年、芥川賞)



谷村志穂『いそぶえ』(平成26年)

三島由紀夫『潮騒』(昭和29年)→5回映画化



伊勢志摩土産の海女人形と絵葉書



手紙を丸めて入れ、実際に旅先から郵送することができました。

SHIRASU WAKININ
姿風の女海
SHIRASU WAKININ
姿風の女海



SHIRASU WAKININ
姿風の女海
SHIRASU WAKININ
姿風の女海

三重県（伊勢志摩）
人形の大きな特徴は、なんといっても、
いるものが多いことです。お祭りの準備
中へアコヤガイをまき、水揚げする
女は非常に深みゆかりがあります
他所でも同様で少しアレンジを
とところも少なくありません。

博覧会の目玉・チラシ・宝くじ



海女実演館資料
戦前
チラシ / 東京海洋大学附属図書館蔵 / 展
覧図書 / 鮎と海女の研究室 / 蔵

引き札 (チラシ)
鮎と海女の研究室 / 蔵

むかしは「ザラシ」(引き札)のひな型です。左側
に各店が店名などを書き入れて配布しました。
七福神の内、弁天様が海女になり、ふしぎな形
の道具と衣装を持って海面にあがっています。

宝くじ
昭和33年(1958)
東京海洋大学附属図書館 / 蔵

海女はなぜ被写体として愛されたか



海女研究における浮世絵の利用

- 創作や模倣の可能性を常に考慮する必要アリ
- 大衆が持つイメージ、要望を具現化した絵画
 - 当時の社会における、海女に対する意識をさぐる
 - 都市部から地方まで広く認知された存在である証明
- 新事実発見の手がかり、調査研究のきっかけ
 - 他の絵図、古文書とのつき合わせ⇒事実の解明